



第120回 品質管理シンポジウム 開催要領

テーマ：顧客価値創造に対応する組織能力
獲得に向けて『改善活動』を見直す
～環境変化、バリューチェーンの拡大、
複雑化に伴う対応～

2025 年 12 月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

品質管理シンポジウム開催趣意書

日科技連は、創立以来その社会的使命にかんがみ主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目をあびるまでに成長いたしており、まことにご同慶の至りであります。

これは、品質管理のもつ特質が現代のダイナミックな企業経営の要請にまったく合致したものであることが第一の原因と考えられますが、その特質は必ずしも品質管理の先験的な本質として備えられていたものではなく、いわば実践理念として、これを適用・活用することによって品質管理自身の特質が開発されてきたものであり、また、されていくものでありましょう。

当初の生産部門における統計的手法偏重時代から品質管理が経営に直結して、経営内諸機能のそれぞれの目的と運営が品質を中心に統合し、企業目的に直接貢献しようとする今日の品質管理の実情への推移は、品質管理が実践理念としてこれから実施者、推進者の手によって開発され進歩するものであることを如実に物語っております。

しかしながら生産と経営の手段がますます高度化し、一方品質問題が、企業の製品責任に関連してますます重要な中心課題となりつつある今日の情勢において、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されると同様に、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的開催いたしますのは、大要上記の趣旨によるものであります。この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました当日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

本シンポジウムに対し、学界ならびに産業界の有志諸氏が広く参加者源泉に加わり、本シンポジウムの発展を見守られ、国際的な存在に育てられるように惜しみなく忠言と鞭撻を寄せられることを希望してやみません。

一般財団法人 日本科学技術連盟

第120回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演	日本のアップデートに挑戦する DeNA (株)ディー・エヌ・エー 代表取締役会長 南場 智子 氏
基調講演・オリエンテーション	組織能力獲得に向けて『改善活動』を見直す 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授 永田 靖 氏
講演 1	ブリヂストン流 DX を支えるソリューション品質管理の取り組み 「質を伴った成長」～ Growth with Quality ～ (株)ブリヂストン 常務役員 Global CQMO・品質経営管掌 井上 祥 氏
講演 2	全員参加の品質経営の推進～あなたのお客様を感動させちゃおう～ 旭化成(株) 品質保証担当 / 上席執行役員 仲二見裕美 氏
講演 3	ビジネスで活躍するデータサイエンティストを育てる ～滋賀大学での教育の紹介～ 滋賀大学 データサイエンス学部 教授 河本 薫 氏
講演 4	自動車における、データを起点とした価値創造 トヨタ自動車(株) デジタル情報通信本部 本部長 山本 圭司 氏

〔ご確認ください！〕品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

■品質・・・顧客及び社会のニーズを満たす度合い

■品質保証・・・顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動

⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。

■サービス・ドミナント・ロジック・・・価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる

※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない

■グッズ・ドミナント・ロジック・・・価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている

※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する

⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何かできれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

■コト価値の考え方・・・顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。

提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。

つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第120回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：顧客価値創造に対応する組織能力獲得に向けて『改善活動』を見直す
～環境変化、バリューチェーンの拡大、複雑化に伴う対応～

開催期間：2025 年 12 月 4 日（木）～ 12 月 6 日（土）

会場：大磯プリンスホテル

月日	時 間	科 目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）	ライブ 配信	見逃し 配信	
12月4日 （木）	19：00～20：10	〈特別講演〉 日本のアップデートに挑戦する DeNA	南場 智子 （株）ディー・エヌ・エー 代表取締役会長	配信あり	配信あり	
	20：10～20：30	〈質疑応答〉				
	20：30～22：00	GD（1），談話室		なし	なし	
12月5日 （金）	8：30～ 8：40	主催者挨拶	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟 理事長	配信あり	なし	
	8：40～ 9：10	〈基調講演・オリエンテーション〉 組織能力獲得に向けて『改善活動』を見直す	永田 靖 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授 〈120QCS 主担当組織委員〉		配信あり	
	9：10～ 9：20	〈質疑応答〉			なし	
	9：20～ 9：25	入替（5分）				
	9：25～10：10	〈講演1〉 ブリヂストン流 DX を支える ソリューション品質管理の取り組み 「質を伴った成長」～ Growth with Quality ～	井上 祥 （株）ブリヂストン 常務役員 Global CQMO・品質経営管掌		配信あり	
		10：10～10：25			〈質疑応答〉	
	10：25～10：35	休憩（10分）				
	10：35～11：20	〈講演2〉 全員参加の品質経営の推進 ～あなたのお客様を感動させちゃおう～	仲二見 裕美 旭化成（株） 品質保証担当 / 上席執行役員		なし	
		11：20～11：35			〈質疑応答〉	
	11：35～11：45	日科技連事業紹介				
	11：45～12：35	昼食憩（50分）				
	12：35～13：20	〈講演3〉 ビジネスで活躍するデータサイエンティスト を育てる ～滋賀大学での教育の紹介～	河本 薫 滋賀大学 データサイエンス学部 教授		配信あり	
		13：20～13：35			〈質疑応答〉	
	13：35～13：40	入替（5分）				
	13：40～14：25	〈講演4〉 自動車における、データを起点とした 価値創造	山本 圭司 トヨタ自動車（株） デジタル情報通信本部 本部長		なし	
		14：25～14：40				〈質疑応答〉
	14：40～15：00	GD 会場へ移動・休憩（20分）				
	15：00～18：30	GD（2）				
	18：30～18：45	休憩（15分）				
	18：45～19：45	夕食				
	19：45～21：00	談話室				
12月6日 （土）	8：30～10：00	GD 報告（10分×8班 ※予備10分）	司会：永田 靖 報告：各班リーダー	配信あり	配信あり	
	10：00～10：15	休憩				
	10：15～11：35	総合討論				
	11：35～11：50	第120回 品質管理シンポジウム まとめ	永田 靖			
	11：50～12：00	次回（第121回）品質管理シンポジウム案内	121QCS 主担当			
	12：00～	昼食・解散		なし	なし	

※ GD：グループ討論の略称

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

※組織名・役職は、2025 年 9 月現在の表記になっております。

第120回品質管理シンポジウム(120QCS) グループ討論

経営における改善の位置づけとトップの役割		
安藤 之裕（一般財団法人日本科学技術連盟 国際事業 参与） 岩佐 伸勝（株式会社ジーシー GQM 推進室 室長）		
第1班 趣旨	妥当な経営目標・戦略を設定し、達成し続けていくためには、経営トップのリーダーシップとコミットメントによって組織能力を高める必要があります。その具体的な実践手段の一つが改善活動であり、品質不正の未然防止にも寄与するものです。 「改善活動とは現場のみの取り組み」という誤解がありますが、経営者や管理者が行う経営上の意思決定においても、経験や勘だけに頼るのではなく、改善の手順や技法を活用することで、その質と成功の確率を高めることができます。方針管理を効果的・効率的に運用する鍵は体系的な改善活動ともいえるでしょう。 第1班では、改めて経営における改善の位置づけを確認し、トップが果たすべき役割について議論します。	論点 ①経営における改善の位置づけ ②現場の改善を推進するためのトップの役割 ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か
方針管理と改善活動		
西 敏明（岡山商科大学 経営学部 教授） 國遠 正章（元 株式会社豊田自動織機）		
第2班 趣旨	方針管理と改善活動が整合していないと、活動全体がバラバラな方向に向かう可能性があります。その結果、無駄な活動や重複した活動が発生し、リソースと時間の浪費につながります。これらは従業員のモチベーションの低下となり、品質向上への意欲の低下を招きます。 組織全体の品質目標を達成するための方針を策定・運用するためには、方針管理と改善活動の計画・実行・評価をどのように連携させるかが重要です。そのためには、組織全体で効果的に情報共有をする必要があります。 変化が激しく、情報があふれかえっている現代では、いかに的確な情報をつかみ、それに基づいて適切な改善テーマを設定し、高速にPDCAを回していくことが大切です。また、サステナビリティへの配慮も必要です。そうすることで、方針と改善活動の一貫性を確保し、より効果的な品質向上を実現できると考えられます。 第2班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、上記の観点を中心に議論します。	論点 ①ビッグデータやAIを利用した的確な改善テーマの設定 ②変化の激しい現代にサステナビリティにも配慮した方針管理と改善活動 ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か
日常管理と改善活動		
長塚 豪己（中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授） 渡邊 克彦（トヨタ自動車株式会社 TQM 推進部）		
第3班 趣旨	品質の確保には徹底した日常管理と十分な改善活動が必要です。日常管理が徹底されていないと品質のばらつきが生じます。改善活動が十分に行われないなら根本的な問題解決ができず、同じ品質問題が繰り返し発生します。同様の品質問題が常時発生していると現場のモチベーションは低下し、改善活動が形骸化します。この悪循環は顧客離脱を招く可能性があります。 全社員が日常管理と改善活動に意欲的に取り組む必要があります。日常管理と改善活動を密接に連携させることが重要です。そのためには、日常管理活動で得られたデータを改善活動に活かす、改善活動で得られた成果を日常管理活動に反映する、そしてスパイラルアップするといった仕組みの構築が大切です。 第3班では、従来から重視されている取り組みに加えて、ビッグデータ分析による品質問題の予兆発見と予防、AIによる作業手順書の生成・更新、環境負荷低減など、新たな取り組みの可能性についても議論します。	論点 ①日常管理において、「うまくいっていること」「うまくいっていないこと」 ②ビッグデータやAIを用いた新たな日常管理と改善活動の取り組み ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か
品質不正と改善活動		
鬼頭 靖（一般財団法人日本科学技術連盟 囑託） 馬淵 和広（株式会社アイシン TQM 推進部 部長）		
第4班 趣旨	改善活動の活発さと品質不正の発生の際に単純な因果関係は想定できないでしょう。しかし、改善活動が形骸化する職場では、品質不正が発生しやすいと想像できます。品質よりも利益や納期を優先するような組織文化は危険です。 過度な改善目標や過剰な圧力、改善活動における情報共有の不備や意思決定の透明性の低さなどにより、改善活動自体が品質不正を誘発するリスクも理解する必要があります。 データの整合性をチェックし、現場の声に耳を傾ける体制づくりなど、改善活動と品質不正防止を有機的に連携させる仕組みの構築と、現場だけではなく、活動を支援するスタッフや上司、関連部署による風土づくりと一人ひとりのマインドの醸成が重要です。 第4班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、上記の観点を中心に議論します。	論点 ①改善活動と品質不正防止を有機的に連携させる仕組み ②品質不正を未然に防止するための風土づくりに必要なこと ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

ビジネス変革の際の改善活動と TQM 推進			
竹本 康彦（早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授） 原 和宏（株式会社ブリヂストン TQM推進部 部長）			
第5班	趣旨	現代のビジネス環境は変化が激しく、ボラタイルな状況にあり、従来の事業手法が通用しない場面に直面することがあります。そのため、製品品質などに関する着実な改善活動にとどまらず、従来のやり方を大きく変えたり、新たな仕組みを導入したりする必要が生じる場合があります。こうした環境変化を乗り越えることは、ビジネスの質を高め、顧客満足・業務効率・組織力のすべてに直結する重要な取り組みとなります。一方で、着実な改善活動では一定の成果が見込めるものの、変革を伴う大きな改善活動は必ずしも成果が保障されるわけではなく、リスクを伴います。本来の改善活動には、着実な改良を目指す取り組みと、革新的な改良やブレークスルーを目指す取り組みの双方が含まれていました。第5班では、今後ますます変化の激しくなるビジネス環境を見据え、着実な改善と大きな改善の両面から、改善活動のあり方について意見を交わしていきます。	論点 ①現場の改良を目指した着実な改善活動の計画と取り組みのあり方 ②ビジネス変革の改善活動 ③「変えてはいけないもの」「変えなくてはいけないもの」は何か
働き方改革と改善活動			
鈴木 秀男（慶應義塾大学 理工学部 教授） 梶原 千里（静岡大学 情報学部 准教授）			
第6班	趣旨	働き方改革は、労働時間を短縮するだけでなく、仕事の仕方を抜本的に見直す取り組みです。改善活動（QC サークルを含む）にも様々な影響を与えられます。よい影響として、労働時間短縮やフレックスタイムの導入などにより生じた時間の改善活動への活用や、オンライン活動により、場所や時間に縛られない柔軟な活動の実施が可能となります。一方、残業時間の規制による改善活動時間の確保の難しさや、オンライン活動では自由闊達な意見交換が阻害されるといった課題も見られます。これらを解決し、改善活動を効果的・効率的に行うためには、支援ツールの開発や活用、そして、従業員一人ひとりが主体的に改善活動に取り組める環境を整備することが大切です。第6班では、メンバーの所属する組織の具体例を持ち寄って、働き方改革が進む中での改善活動のあり方を議論します。	論点 ①働き方改革が改善活動に及ぼすメリットとデメリット ②オンラインを利用した改善活動推進のためには何を整備すべきか ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か
ビッグデータや AI を活用した改善活動			
森崎 修司（名古屋大学 大学院 情報学研究科 准教授） 緒方 大記（株式会社ブリヂストン 新事業・ソリューション品質システム課）			
第7班	趣旨	変化の激しい現代において企業には品質管理のさらなる高度化が求められています。ビッグデータや AI（生成 AI や認識 AI）は、従来の改善活動手法を強力に支援し、新たな可能性を拓くツールとして注目されています。その際、どのような視点を持てばよいでしょうか。解決したい品質課題やその目標設定、分析可能なデータの収集方法、活用可能なデータ分析技術や AI 技術、改善活動内容、導入・運用の課題と対策などが挙げられます。ビッグデータ・AI 活用のメリットとしては、迅速な問題発見・解決、高度な分析と意思決定、業務効率化・コスト削減、新たなイノベーションの創出などが考えられます。一方、初期導入コスト、データ品質の確保、AI 人材不足、倫理的な問題、システムの安全性の問題などの懸念点もあります。従来の改善活動手法としての分けと融合も検討課題です。ビッグデータや AI は強力ですが万能ではありません。状況に応じて従来手法と組み合わせることで、効果的な改善活動を実現できると考えられます。第7班では、このような観点を中心に議論します。	論点 ①ビッグデータ・AI 活用シーンとメリットとデメリット ②従来の改善活動との融合と将来の改善活動の方向性 ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か
改善活動を適切に実践できる人材育成			
安井 清一（東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 准教授） 荻島 賢一（コニカミノルタ株式会社 品質本部 品質保証企画部 シニアエキスパート）			
第8班	趣旨	改善活動を適切に実践していくためには、活動の考え方・スキルを持つことが必要です。そのためには、まず、すべての階層の人たちに改善活動の意義を理解してもらうことが重要となります。そして、改善活動を実施するための方法を教育する必要があります。これまでの、例えば、QC サークル活動やスタッフによる改善活動、プロジェクト活動などの小集団活動が活動形式として位置づけられ、考え方と必要な方法論を階層別・機能別に教育し、OJT で実践してきました。しかし、世の中の変化が激しくなっています。大量なデータが存在する場合も多く、生成 AI の出現もあります。品質不正も顕在化してきました。これらの経営活動に関する環境変化を受けて、改善活動を適切に実践できる人材像とそれを育成するための考え方・方法を再構築する必要があります。第8班では、改善活動を適切に実践できる人材育成について議論します。	論点 ①経営活動に関する環境変化（ビッグデータ、AI、DX、カーボンニュートラルへの対応、品質不正の顕在化等）を受けて、改善活動を適切に実践できる人材像 ②①の人材像を育成するための考え方・方法 ③「変えてはいけないもの」「変えなければいけないもの」は何か

* GD 会場の収容人数の関係から各班 15 ～ 30 名となります。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。

* 組織名・役職は、2025 年 9 月現在の表記になっております。

* 論点は参加者の意向で変更になる場合があります。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ（事前準備等）

GD（グループ討論）ご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から事前のグループワークがスタートします。

シンポジウム当日の限られた時間の中でのグループ討論をスムーズに進行していくために、お申込み後、ご自身の所属班が決まりましたら（10/23頃）各班メーリングリストを開始いたします。

メーリングリストにて、メンバー同士の自己紹介（※1）や、意識・用語などの認識の擦り合わせ、論点の絞り込み等（※2）を行って頂きます。

10月23日頃	GD参加班決定のご連絡およびGDメーリングリストの開始
※1	自己紹介のご案内を、事務局から参加者ご本人にメールでお送りいたします。 ご自身の参加するGD班をご確認頂き、事務局からご案内するメールに従って自己紹介等をお願いいたします。
※2	GDリーダーを中心に、論点案についてメンバー間で意見交換を行って頂きます。総合討論の論点・提言の枠組みを踏まえて ①テーマについて「どの範囲に絞って討論するのか」を提示する。（GDリーダー） ②その範囲で「何を論点として討論するのか」を提案する。（メンバー） ③メンバーが提案した論点案を整理する。（GDリーダー、記録係） * GDリーダーによって進行の方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、テーマ趣旨論点によっては自己紹介のみの班もございます。
11月20日頃	品質管理シンポジウム開催のご案内メール送信
12月1日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
12月4日～	第120回品質管理シンポジウム開催

* 報文集は当日現地にてお配りいたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの

服 装：

- 1) 楽な服装でご参加いただいて結構です。ネクタイ着用の必要はありません。
- 2) シンポジウム受付時に名札をお渡ししますので、会期中胸につけて下さい。
- 3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持 ち 物：

- お名刺（50枚程度）
- 筆記用具
- 《あると便利なもの》
- ◆ モバイルPC又はタブレット端末等
- ◆ ポケットWi-Fi

GDでは各班ごとにZoomをご利用いただけます。お席によってプロジェクタ画面が見つからない場合に、Zoomにログインいただけますとお手元のPC、モバイル端末でプロジェクタ投影画面をご覧いただけます。

※大磯プリンスホテルには無料でご使用できるWi-Fiもございますが、場所によってはWi-Fiの電波が弱い場合お持ちいただけると便利です。

会場のご案内（１日目）

12月4日(木)	大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシーで、大磯駅から約7分（約1,800円）、小田原駅から約30分（約5,800円） 大磯駅をご利用頂くQCS企業・団体会員の参加者の方は会場までのマイクロバス送迎サービス（定員21名）をいたします。 第1便 15：50（定員21名） 第2便 16：40（定員21名） 第3便 17：40（定員21名） 第4便 18：15（定員21名） * 先着順となりますので乗り切れない場合は、タクシー又は路線バスをご利用ください。詳細は「別紙」をご確認下さい。	
	シンポジウム受付 チェックイン	シンポジウム受付・チェックインは1F 客室棟玄関です。 ・16：00 から受付を開始いたします。 （19：00 以降のご到着の場合は、ホテルフロントに受付が移動となりますのでご注意ください。） ※詳細はP9 館内地図および「別紙」をご確認ください。 【館内のご案内】 ・各部屋インターネットが無料にご利用になれます。 ・大磯プリンスホテルは全館禁煙です。 ※喫煙は、屋外の喫煙スペース(1F)でお願いします。 ※ホテル内各居室等での喫煙（電子タバコも含む）が確認された場合、クリーニング代として50,000円を請求いたします。
	夕食	メインバンケットホール(かもめ) ・17：30～18：45（到着が遅れる場合は19：30迄）にお取りください。 ・お飲み物はお自弁いただきます。
	特別講演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・19：00 から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。
	GD	各会場(当日ご案内いたします) ・特別講演終了後、20：30 から開始いたします。 ・1日目のGDは、グループで自己紹介(名刺交換等)を行って頂きます。
	談話室 (QCバー※)	メインバンケットホール (かもめ) ・GDの班毎にご着席頂きます。 ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみを用意しますのでご利用ください。 ・談話室は、会場利用の関係から22：00迄となります。

会場のご案内（2日目）

12 月 5 日 (金)	朝	食	メインバンケットホール(かもめ) ・6:30～8:30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	講	演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・8:30から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。
	昼	食	メインバンケットホール(かもめ) ・11:45～12:35にお取りください。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	給茶サービス		メインバンケットホール ホワイエ ・GD 開始前 14:40～15:00 の休憩・GD 移動時間に講演会場外のホワイエにコーヒー、紅茶をご用意しております。 ・お飲み物は、そのまま GD 会場へお持ちいただけます。
	GD		各会場 ・別途、班ごとの会場をご案内いたします。
	夕	食	メインバンケットホール(白鳥・鶴) ・18:45～19:45で立食パーティー(※)を予定しております。
	談話室 (QCバー※)		メインバンケットホール(かもめ) ・会場は 19:45 からご利用いただけます。(会場は 21:00 迄。自由参加) ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。

※ご夕食の形態、談話室（QCバー）は、変更・中止になる場合があります。

会場のご案内（3日目）

12月6日(土)	朝食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30～8：30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	チェックアウト	プログラム開始前に、「メインバンケットホール入口」にてルームキーを回収いたします。 ※但し、お部屋にて有料のルームサービスやマッサージご利用の場合は、8：30までにホテルフロント（スパ棟1F）にてチェックアウトをお願いします。
	手荷物	メインバンケットホール（白鳥、鶴）後方 ・貴重品の管理は各自でお願いします。
	G D 報告と総合討論	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30～12：00の予定です。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。
	昼食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：00～お取りいただけます。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
大磯プリンスホテルからの交通機関 ①シンポジウム終了後、QCS企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。詳細は、当日現地にてご案内致します。 ②大磯駅に向かう路線バスがございます。 「大磯プリンスホテルバス停」 「大磯プリンスホテル入口バス停（ホテルより徒歩5分）」 ③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。		

※各GDのまとめ資料はPDFでのデジタル配付となります。詳細はシンポジウム受付時にお渡しします実施要領をご覧ください。

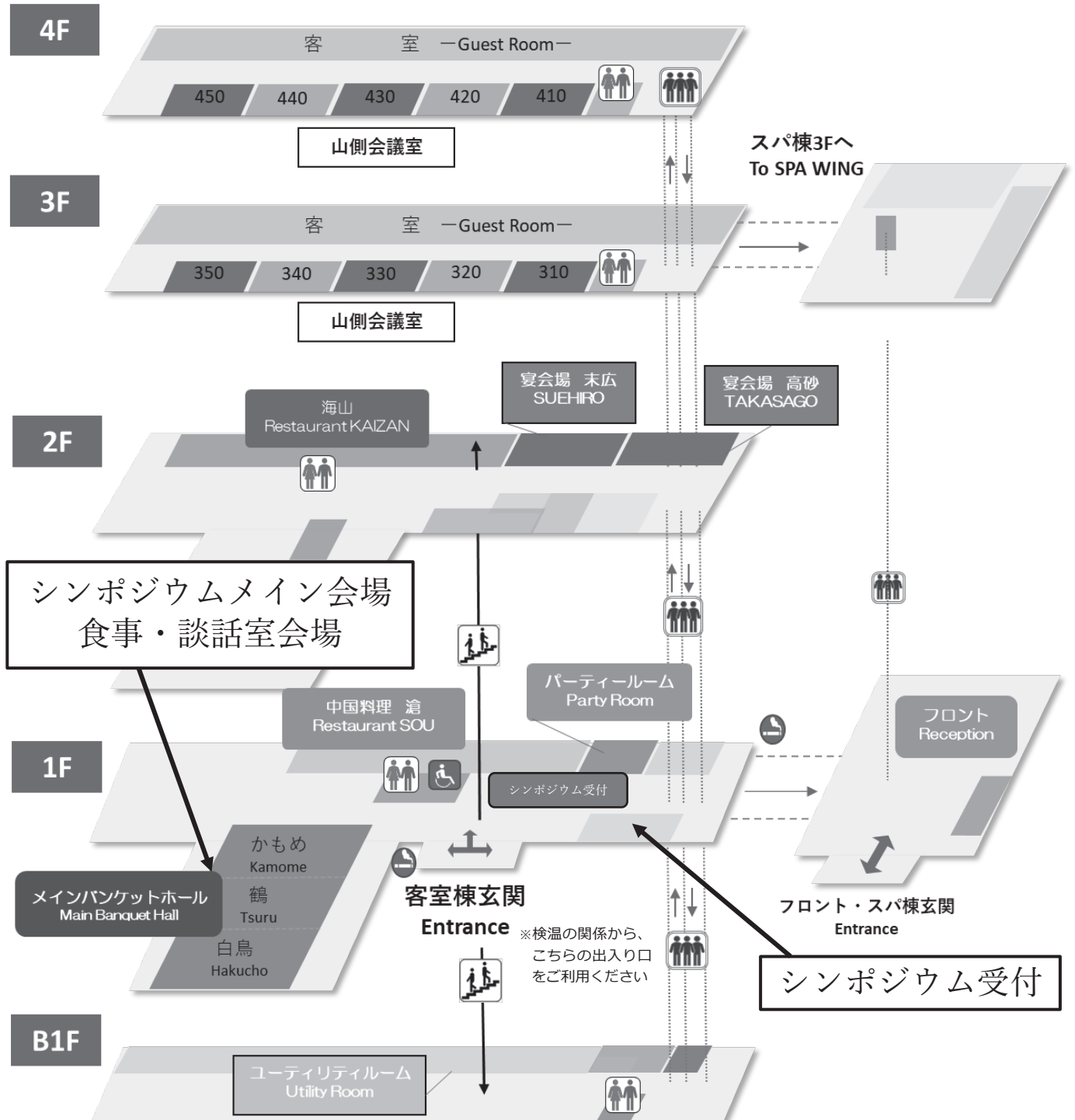
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを通じてお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴頂けます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

11月13日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
11月20日頃	(1)品質管理シンポジウムご案内メール送信（視聴方法等ご確認ください） (2)動画配信サイト Deliveru よりご視聴用 ID・PWD ご連絡（参加者宛にメール送信）
12月1日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
12月3日	参加者様へ Deliveru より ID・PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
12月4日 19：00～	第120回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

報文集は、動画視聴サイトDeliveruの各イベントページ内にあります「資料ダウンロード」タブよりダウンロードしてください。

※当日に視聴できないとのお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID・PW：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が行き届くかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

「見逃し配信」について

ライブ視聴参加の特典として、許可いただいた講演の動画をシンポジウム翌週12月10日（水）13：00～より1週間の期間限定にて「見逃し配信」をご視聴頂けます。

ライブ視聴参加者へは、シンポジウム終了後、準備が整い次第、事務局よりメールにてご案内いたします。

その他ご案内

参 加 方 法	●集合参加……………現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介し PC やモバイル端末等で、特別講演（1 日目）、基調講演・オリエンテーション・講演 1～4（2 日目）、GD 報告・総合討論（3 日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GD へは参加できません。 ◆シンポジウム申込方法 QCS 専用 WEB サイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/
参 加 費 *日科技連より ご請求書を発行いたします。	● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の 2 名分、団体会員は通常枠の 1 名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の 1 名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200 円／1 名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000 円／1 人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2 日目）、GD 報告・総合討論（3 日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50 名まで …………… 550,000 円 51～100 名まで …… 880,000 円 101～200 名まで … 1,100,000 円 ※ 201 名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問い合わせください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムの GD や総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 ◆参加費に含まれるもの 集合参加者の 1 日目夕食、2 日目昼食・夕食、3 日目昼食 ◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の 1 ヶ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より 2 ヶ月以内となります。

その他ご案内（集合参加）

交通費	● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り								
宿泊費 * (株)ジャパトラ よりご請求書を 発行します。	● QCS 企業会員・団体会員 1 人部屋（2 泊 52,700 円）* 朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※ 1 部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 宿泊費キャンセル料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table> <tr> <td>① 11 月 27 日（木）17：00 より前の解除</td><td>－ 無料</td></tr> <tr> <td>② 11 月 28 日（金）17：00 以降～ 12 月 3 日（水）17：00 より前の解除</td><td>－ 旅行代金の 20%</td></tr> <tr> <td>③ 12 月 3 日（水）17：00 以降の解除（④を除く）</td><td>－ 旅行代金の 50%</td></tr> <tr> <td>④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td><td>－ 100%</td></tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次 メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上 げます。 ● 10 月 31 日迄のお申込み→お申込日より 2 週間以内に発送 ● 11 月 1 日～ 21 日のお申込み→お申込日より 3 日以内に発送 ● 11 月 22 日以降のお申込み→お申込日より 3 日以内に発送 } 11月27日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください	① 11 月 27 日（木）17：00 より前の解除	－ 無料	② 11 月 28 日（金）17：00 以降～ 12 月 3 日（水）17：00 より前の解除	－ 旅行代金の 20%	③ 12 月 3 日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	－ 旅行代金の 50%	④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	－ 100%
① 11 月 27 日（木）17：00 より前の解除	－ 無料								
② 11 月 28 日（金）17：00 以降～ 12 月 3 日（水）17：00 より前の解除	－ 旅行代金の 20%								
③ 12 月 3 日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	－ 旅行代金の 50%								
④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	－ 100%								
宿泊の部屋割り	部屋割は事務局に一任させていただきます。								
その他	① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。 ② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。 ※記載金額はすべて税込みとなります。								

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
 〒 163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4 階
 TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QC デスク 担当：柏木、鶴川、西森
 〒 161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8 階
 TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

参加者のみなさまへ

日科技連では「あらゆる人権問題の解決は企業の社会的責任である」として人権啓発活動に取り組んでおります。この考え方にに基づき、下記のとおり「人権問題に関する発言ガイドライン」を設けております。参加者のみなさまにおかれましても是非ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Ver.1

事業実施における人権に関する発言ガイドライン

I. 事業実施における人権基本姿勢

1. 互いの人権が尊重され、一人ひとりが積極的に参画できる場を創る
2. 人権に配慮した表現・行動を目指す
3. 人権を侵害するような事実が確認された場合は、厳しい処罰を行う
4. 人権侵害の発生を防止するため、適切な予防活動を行う

II. 表現・発言における注意点

- ・ ジェンダー、障がい、疾病、職業、国籍、出身地、容姿などに対する差別的な表現の排除
例) 「人夫」「特殊部落」「バカチョン」「ジブシー」
 - ・ 同問題に対し、悪意の有無に関わらず相手が不快に感じる可能性の高い表現の置き換え
例) 「めくら判」「片手落ち」「間違いに刃物」「女性や初心者でも手軽に」
 - ・ その他、特定団体や特定個人に対する誹謗中傷
- * 不適切発言には、わかりやすく（面白く）伝えようとし、揶揄的な表現、例えばなし、個人の価値観の押し付けなどにより、相手に不快感や誤解を与えてしまう場合が多く見られます。

III. セクシュアルハラスメントについて

「行為を受けた人がその行為に対して、どのように感じるか」が判断基準となります。行為者に悪気がない、良かれと思って行った、としても相手が不快に感じればセクシュアルハラスメントに該当します。

- ・ 男女間の意識のズレ
「これくらいは大丈夫だろう」「相手も許容する準備があった」と思うのは行為者の誤った認識からでの解釈です。女性（或いは男性）参加者が少ない場では特に、マイノリティへの配慮をお願いします。
- ・ 固定的な性別役割分担意識
未だに補助的な作業を女性に任せる男性優位意識が散見されます。女性側の意識変革も求められますが、女性というだけで常にサポートに回ることがないよう、ご配慮ください。

※ 会場での行き過ぎた営業活動、所属団体の宣伝等も、不信感に繋がりますので、お控えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上

一般財団法人日本科学技術連盟

品質管理シンポジウム会員内規

1. 一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。
2. 品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員1口以上を負担する法人、団体または個人とする。
企業会員：1口につき年額221,100円（消費税込み）
団体会員：1口につき年額128,700円（消費税込み）
 - (1) 会員は年2回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。
企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみ）
団体会員：無料参加枠1名（通常枠）
 - (2) ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。
 - (3) 本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料の配布を受ける。

（2024年4月1日改訂）

– 16 –